

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 6 年 6 月 19 日

岐阜県知事

殿

提出者 株式会社 中島窯業

住 所 岐阜県多治見市笠原町4024-26

氏 名 代表取締役 中島大貴

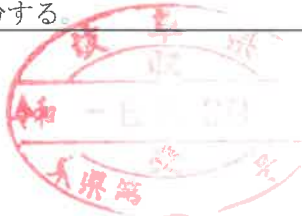
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0572-44-2291

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

| | |
|--------------------------|---|
| 事業場の名称 | 株式会社中島窯業 本社工場 |
| 事業場の所在地 | 岐阜県多治見市笠原町4024-26 |
| 計画期間 | 令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日 |
| 当該事業場において現に行っている事業に関する事項 | |
| ① 事業の種類 | 窯業・土石製品製造業 |
| ② 事業の規模 | 16.6億円／年 |
| ③ 従業員数 | 92名 |
| ④ 産業廃棄物の一連の処理の工程 | 【陶磁器くず】 廃棄タイル・余剰タイルを処理業者に引き渡し業者の処理設備にて粉砕処理を行う。 【汚泥】 釉掛けし流れ出た製造過程の水を絞りカスを業者に運び処理する。 【ガレキ類】 粉砕し運搬担当業者により廃棄物処理業者に運ばれ処理される。 【混合くず】 依頼している運搬業者が処分業者のリサイクルセンターへ運び選別処分する。 |

（日本産業規格 A列4番）



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

【産業廃棄物処理の責任者】

総務グループ グループリーダー 加藤 亮

↓

【産業廃棄物処理の副責任者】

総務グループ サブグループリーダー 松澤 志朗

【JIS品質管理責任者】

工程技術グループ グループリーダー 山田 靖夫

↓

【JIS品質管理副責任者】

工程技術グループ サブグループリーダー 河野 勇一

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

| | | | | | |
|-----|--|-------|------|-------|------|
| ①現状 | 【前年度（令和5年度）実績】 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 陶磁器くず | 汚泥 | ガレキ類 | 混合くず |
| | 排出量 | 827 t | 18 t | 443 t | 12 t |
| | （これまでに実施した取組） <ul style="list-style-type: none"> ・追加受注に備え多めに生産している量の見直し ・不良による廃棄や再生産が出ないように品質向上を図る | | | | |
| ②計画 | 【目標】 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 陶磁器くず | 汚泥 | ガレキ類 | 混合くず |
| | 排出量 | 800 t | 15 t | 300 t | 10 t |
| | （今後実施する予定の取組） <ul style="list-style-type: none"> ・上記の実施中の取組と同時に、発生する廃棄物を再利用できるようリサイクル手段の検討や研究を実施する。 ・追加受注分の生産量や在庫数もふまえ適正量の生産計画を立てる | | | | |

産業廃棄物の分別に関する事項

| | |
|-----|--|
| ①現状 | （分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 陶磁器くず、汚泥、ガレキ類、混合くずに分類 <取組>廃棄場所の明確化、廃棄物分別の周知徹底 |
| ②計画 | （今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 分類と取組については現状と同様に対応する |

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

| | | | | | |
|-----|-------------------|-------|----|------|------|
| ①現状 | 【前年度（令和5年度）実績】 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 陶磁器くず | 汚泥 | ガレキ類 | 混合くず |
| | 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量 | - | - | - | - |
| | (これまでに実施した取組) | | | | |
| | | | | | |
| ②計画 | 【目標】 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 陶磁器くず | 汚泥 | ガレキ類 | 混合くず |
| | 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量 | - | - | - | - |
| | (今後実施する予定の取組) | | | | |
| | | | | | |

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

| | | | | | |
|-----|----------------------|-------|----|------|------|
| ①現状 | 【前年度（令和5年度）実績】 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 陶磁器くず | 汚泥 | ガレキ類 | 混合くず |
| | 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 | - | - | - | - |
| | 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 | - | - | - | - |
| | (これまでに実施した取組) | | | | |
| ②計画 | 【目標】 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 陶磁器くず | 汚泥 | ガレキ類 | 混合くず |
| | 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量 | - | - | - | - |
| | 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量 | - | - | - | - |
| | (今後実施する予定の取組) | | | | |

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

| | | | | | |
|-----|---------------------------|-------|----|------|------|
| ①現状 | 【前年度（令和5年度）実績】 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 陶磁器くず | 汚泥 | ガレキ類 | 混合くず |
| | 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量 | - | - | - | - |
| | (これまでに実施した取組) | | | | |
| ②計画 | 【目標】 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 陶磁器くず | 汚泥 | ガレキ類 | 混合くず |
| | 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量 | - | - | - | - |
| | (今後実施する予定の取組) | | | | |

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

| | | | | | |
|-----|---|-------|------|-------|------|
| ①現状 | 【前年度（令和5年度）実績】 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 陶磁器くず | 汚泥 | ガレキ類 | 混合くず |
| | 全処理委託量 | 827 t | 18 t | 443 t | 12 t |
| | 優良認定処理業者への処理委託量 | - | - | - | - |
| | 再生利用業者への処理委託量 | 827 t | 18 t | 443 t | 12 t |
| | 認定熱回収業者への処理委託量 | - | - | - | - |
| | 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 | - | - | - | - |
| | (これまでに実施した取組) | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 定期的な生産計画の見直し 随時更新される生産計画に則した量の原料を仕入れ利用する 不良による廃棄、それに伴う再生産が発生しないよう製品の品質向上を図る | | | | |

(第5面)

| | | | | | |
|--------|--|-------|------|-------|------|
| ②計画 | 【目標】 | | | | |
| | 産業廃棄物の種類 | 陶磁器くず | 汚泥 | ガレキ類 | 混合くず |
| | 全処理委託量 | 800 t | 15 t | 300 t | 10 t |
| | 優良認定処理業者への 処理委託量 | - | - | - | - |
| | 再生利用業者への 処理委託量 | 800 t | 15 t | 300 t | 10 t |
| | 認定熱回収業者への 処理委託量 | - | - | - | - |
| | 認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量 | - | - | - | - |
| | (今後実施する予定の取組) | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・在庫と調整しながら生産量の適正化を図る ・製品の不良が出ないように製造に関わる社員の生産技術向上を目的とした教育や勉強会の実施 ・廃棄される原料を利用した新商品の開発 ・資源リサイクルの検討(方法や研究) | | | | |
| | | | | | |
| ※事務処理欄 | | | | | |

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。